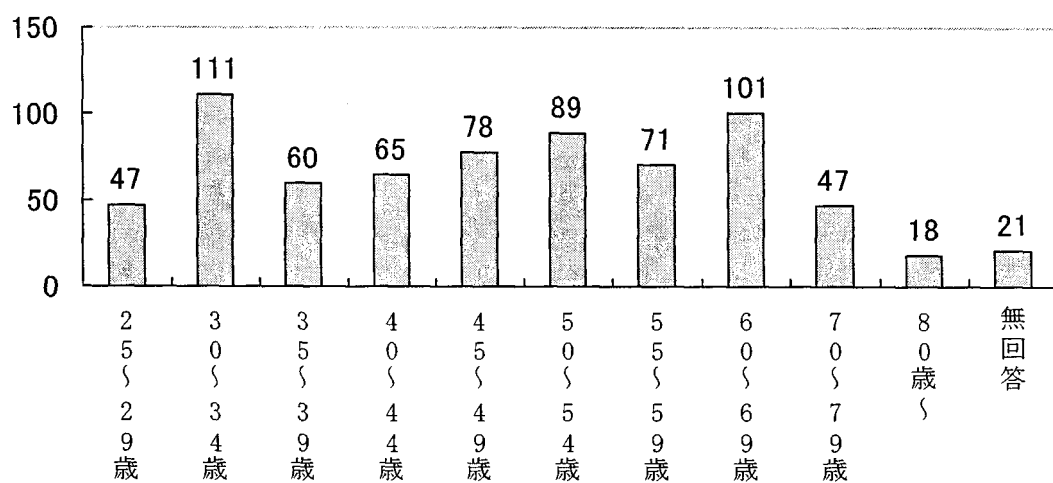


3. 診療所長アンケート

☆診療所長のプロフィール

a. 年齢

自治医科大学および他大学からの派遣によると思われる25～34歳の医師が多いものの、ほぼ各年齢層の医師が勤務しており、長期にへき地に勤務してきた医師や退職後に赴任したと思われる60歳以上の医師も多かった。

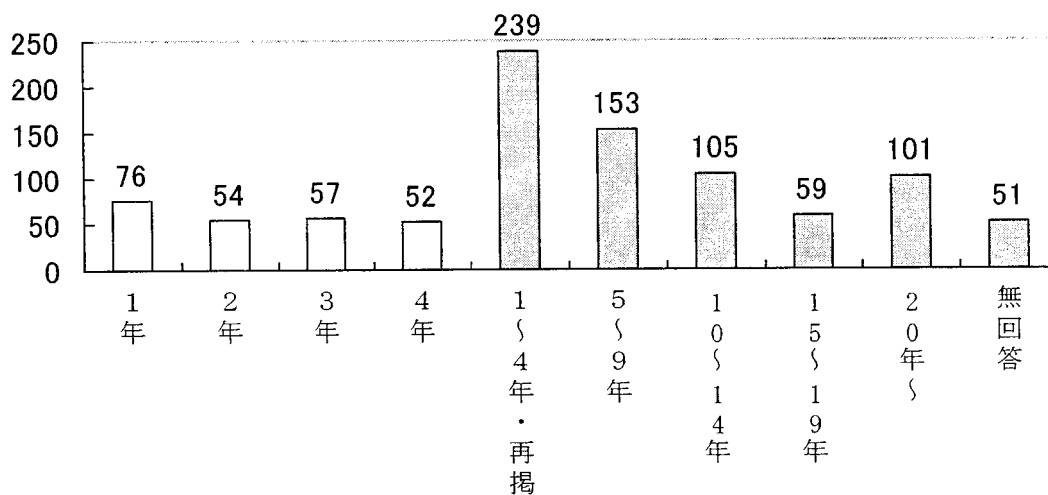


N = 708

b. へき地医療の経験年数

4年以内の医師が多かった(4年以内については1年きざみでも表示)。

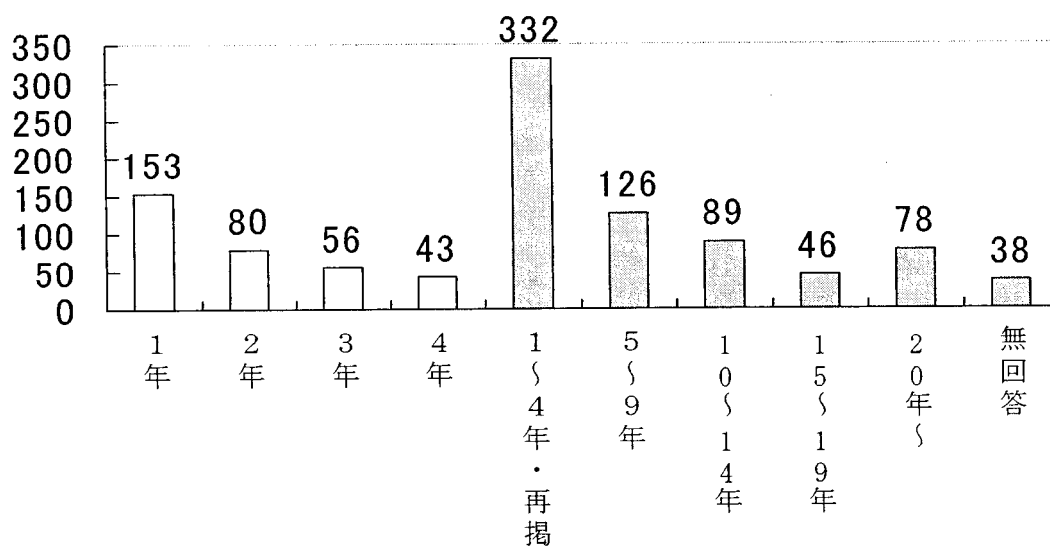
しかし、長期にへき地医療を担ってきた20年以上の経験を持つ医師もかなり見られている。



N = 708

c. 現勤務先の勤続年数

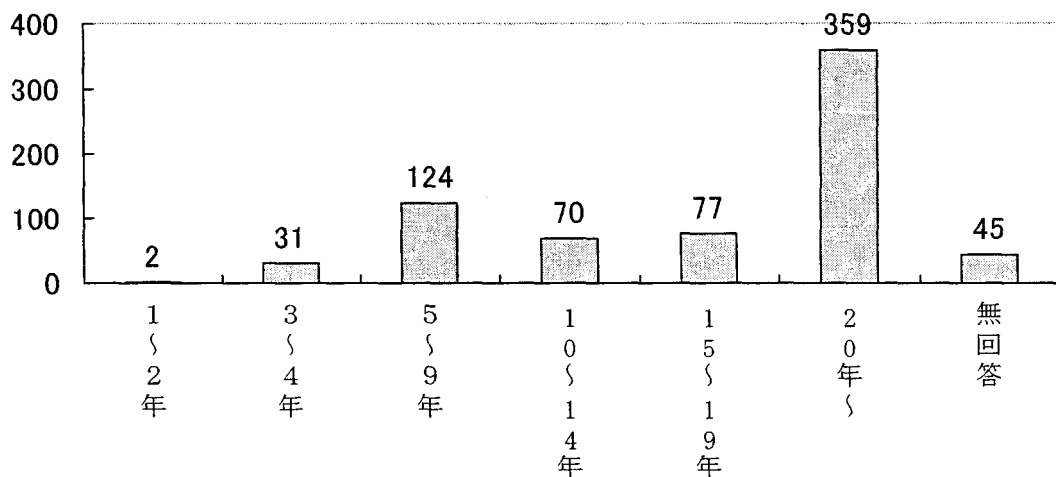
現勤務先における勤続年数についてはやはり4年以内の医師が多かった。



N = 708

d. 卒後年数

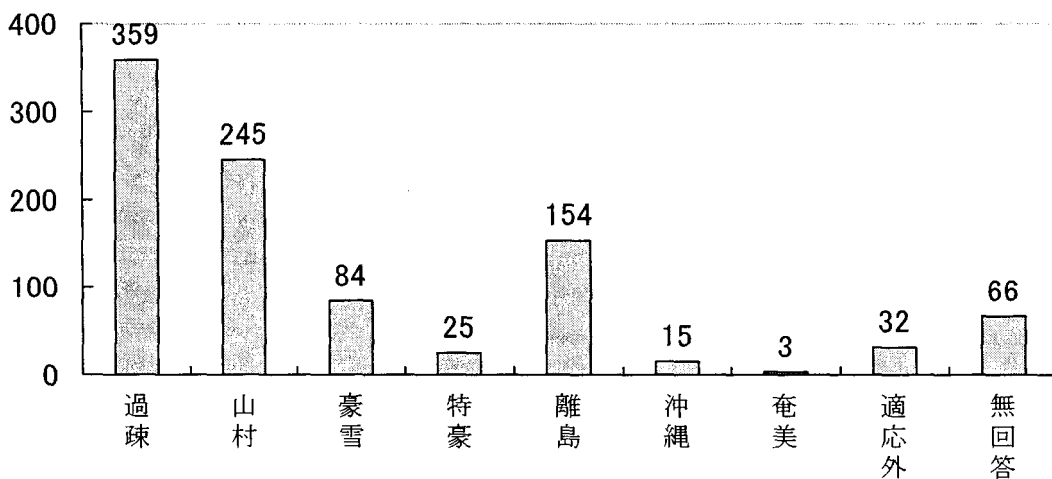
本来3年目以降で赴任するはずであるが、1～2年の医師でも勤務していた。
卒後20年以上の医師がもっとも多かった。



N = 708

☆診療所が設置されている地域の法律適応状況をお知らせください。

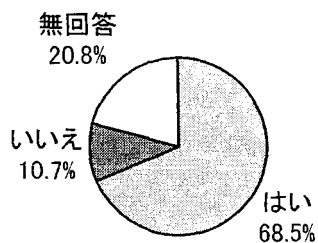
3分の2が山間のへき地であり、4分の1が離島となっていた。



N = 708

☆へき地診療所の指定を受けていますか。

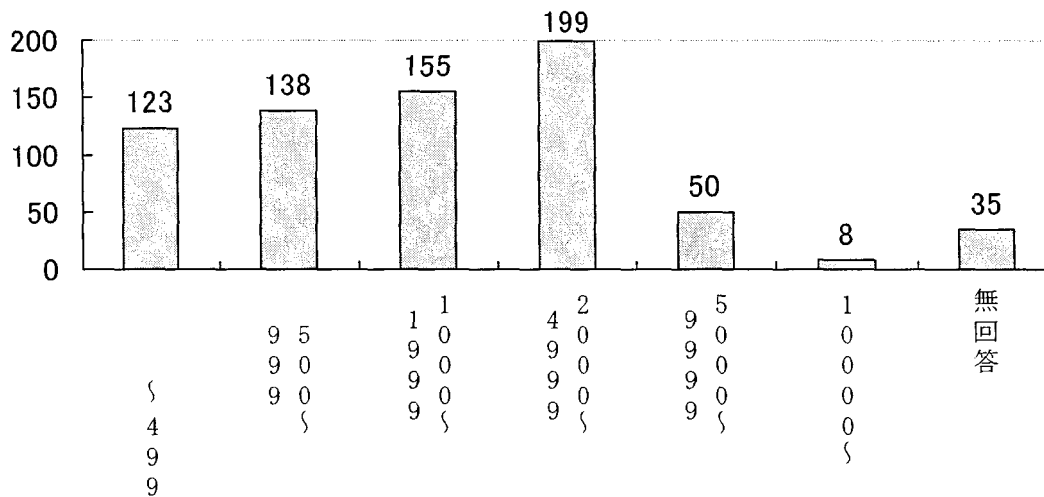
3分の2を越える診療所がへき地診療所の指定を受けていた。



N = 708

問1 1) 診療所の診療圏の対象人口はおおよそ何人ですか。

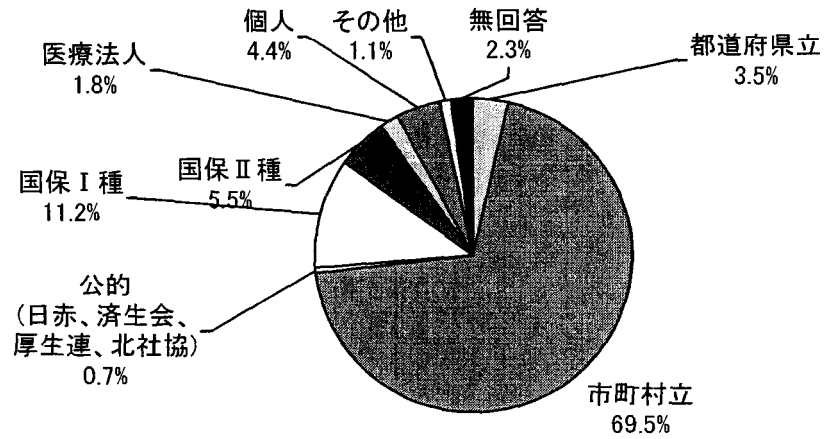
「実際に医療を提供している地域および受診住民が居住する範囲」としての診療圏の人口は2000未満が6割を占めた。



N = 708

2) 診療所の設置主体をお答えください。

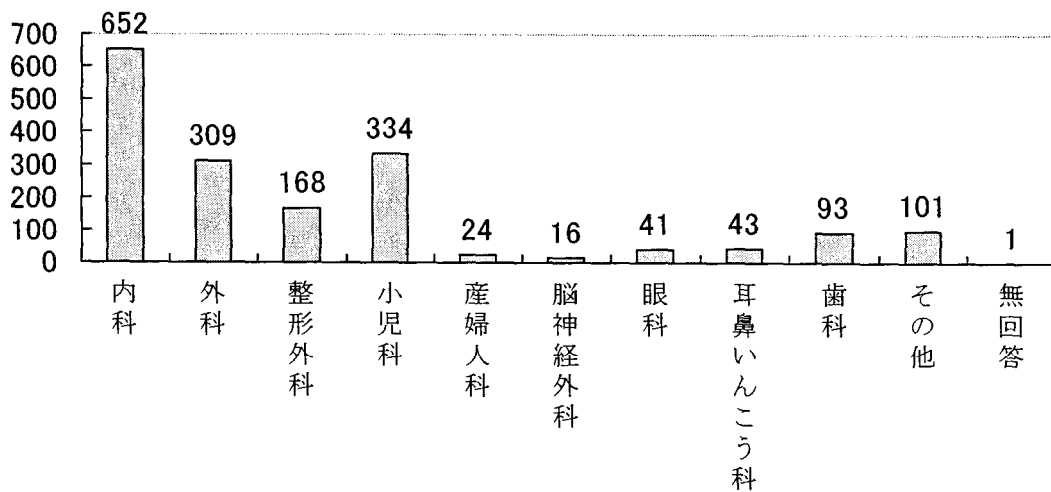
市町村が開設しているものが7割、国保補助事業が2割弱であった。



N = 708

3) 診療している診療科をお答えください(複数回答)。

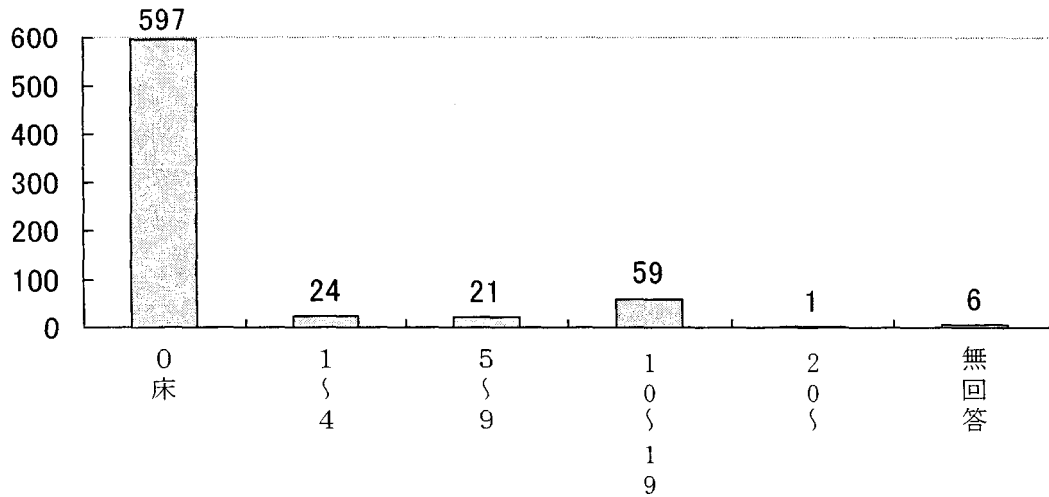
内科が最も多く、ついで小児科、外科と続いていた。



N = 708

4) 病床数はいくつですか。

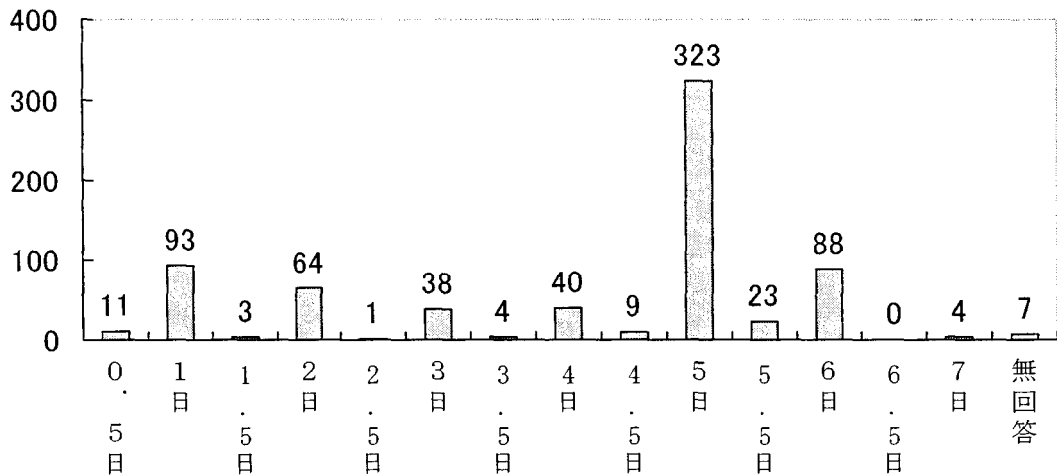
無床診療所がほとんどを占めたが、15%に有床診療所があった。



N = 708

5) 1週間のうちの実診療日(外来)は何日ですか。

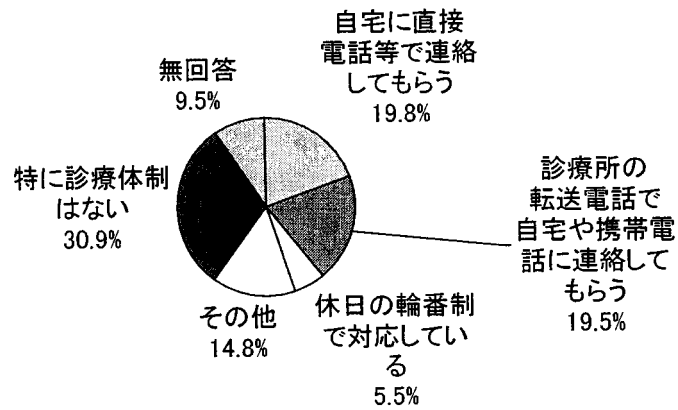
週5日が最も多かったが、出張診療などで1日以下のところも15%にあった。



N = 708

6) 休日の診療体制はどうなっていますか。

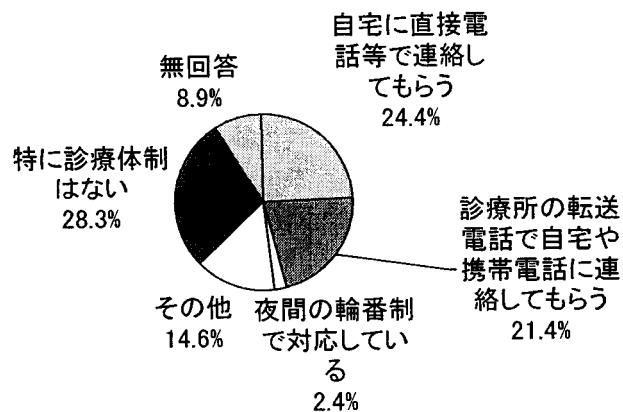
4割の診療所で休日も連絡可能な体制があることが判明した。輪番制は5%において行われていた。



N = 708

7) 時間外の診療体制はどうなっていますか。

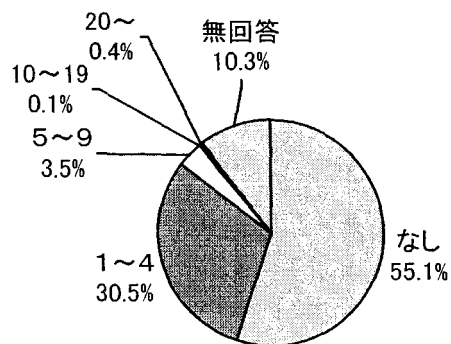
休日より連絡可能な体制をとっている診療所が増えたが、輪番制を組んでいる診療所は減少した。



N = 708

1 0) 同じ診療圏内には貴診療所の他にいくつ医療機関がありますか。

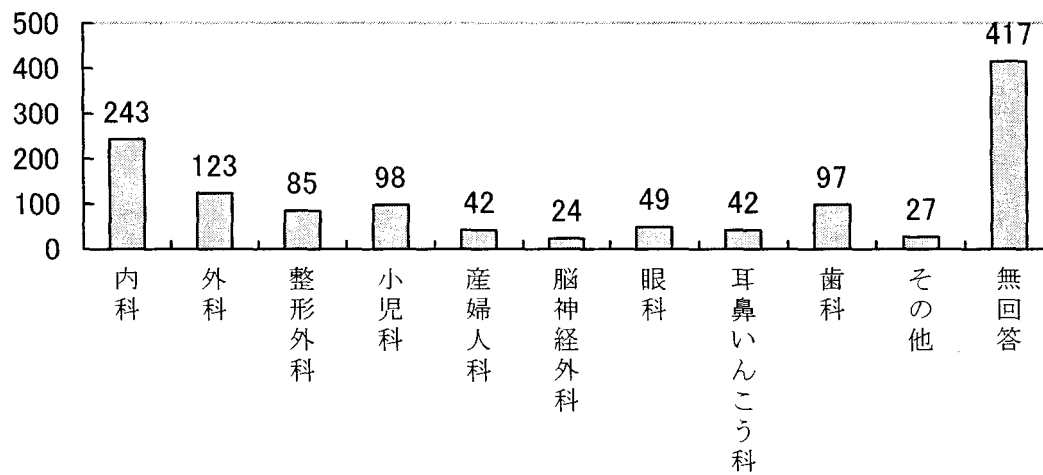
診療圏で唯一の医療期間である診療所は半数を超えていた。



N = 708

1 1) 診療圏内にある医療機関の診療科をお答えください(複数回答)。

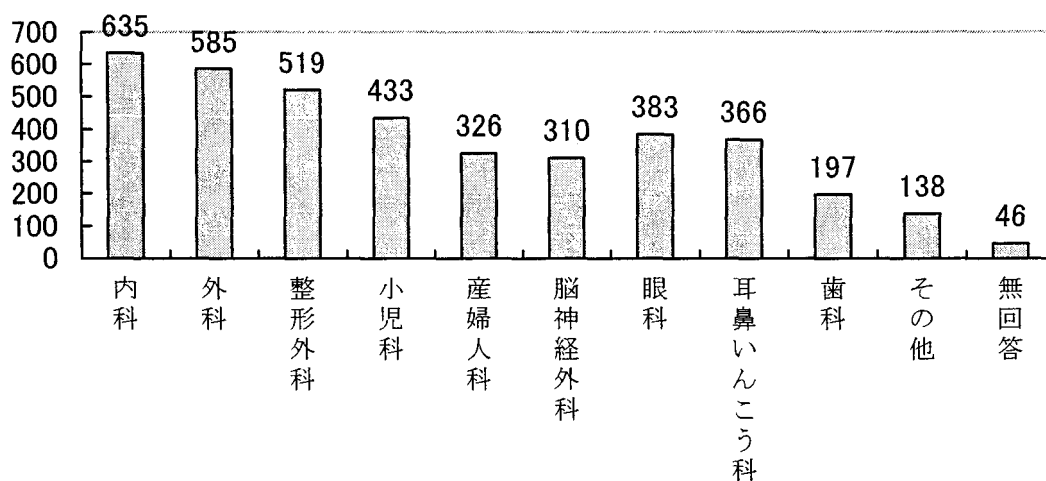
内科が最も多かった。歯科医療機関が近くにある診療所が1割強あった。



N = 708

1 2) 一番近くにある診療所を支援する病院の診療科をお答えください(複数回答)。

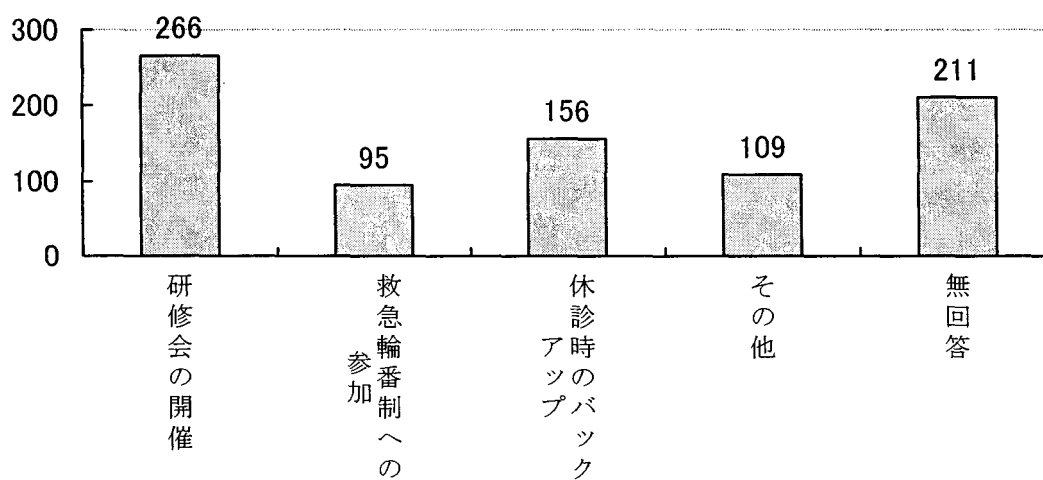
内科、外科、整形外科の順が多かった。小児科の診療を行っている病院は内科の3分の2であった。



N = 708

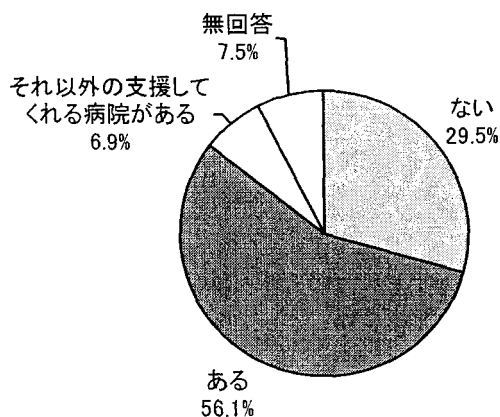
1 3) 各医療機関間の連携において行われていることは何ですか(複数回答)。

研修会の開催、休診時のバックアップなどが行われていたが、全体の3分の1に過ぎない状況であった。



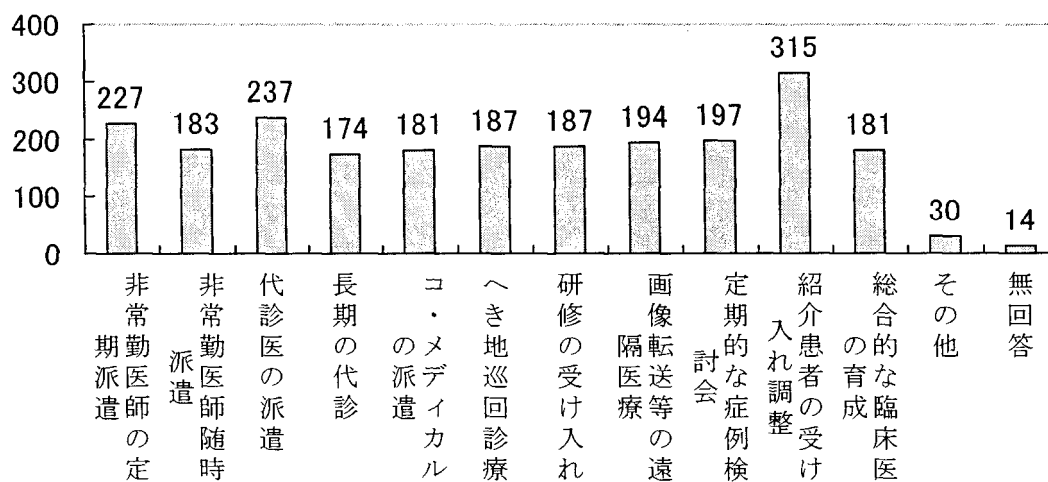
N = 708

問2 貴診療所を支援してくれるべき地医療拠点病院はありますか。
 拠点病院以外の支援を含めても6割に過ぎず、3割の診療所は支援を受けていなかった。



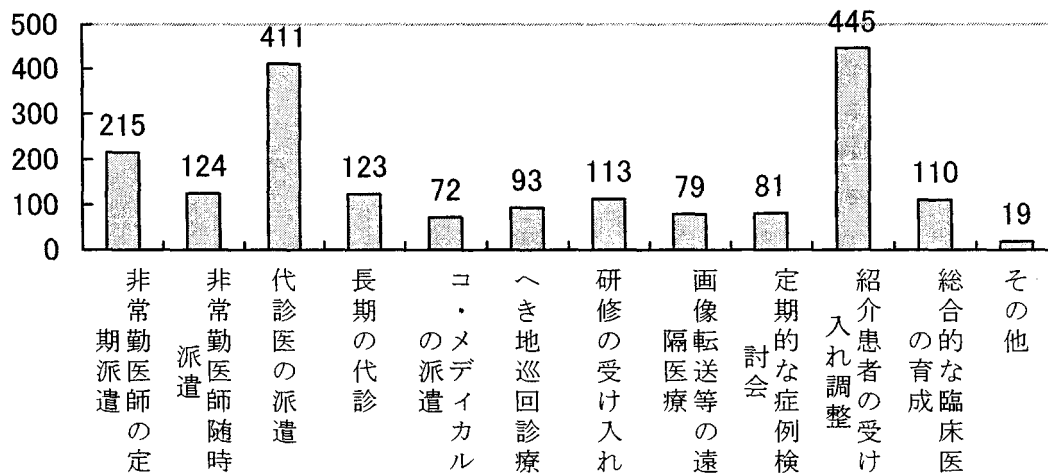
N = 708

問3 支援してくれる拠点病院がある診療所にお聞きします。
 その病院が果たしている機能をお答えください(複数回答)。
 「紹介患者の受入調整」がもっとも多かった。他の機能は半数前後の病院が果たしているに過ぎなかった。



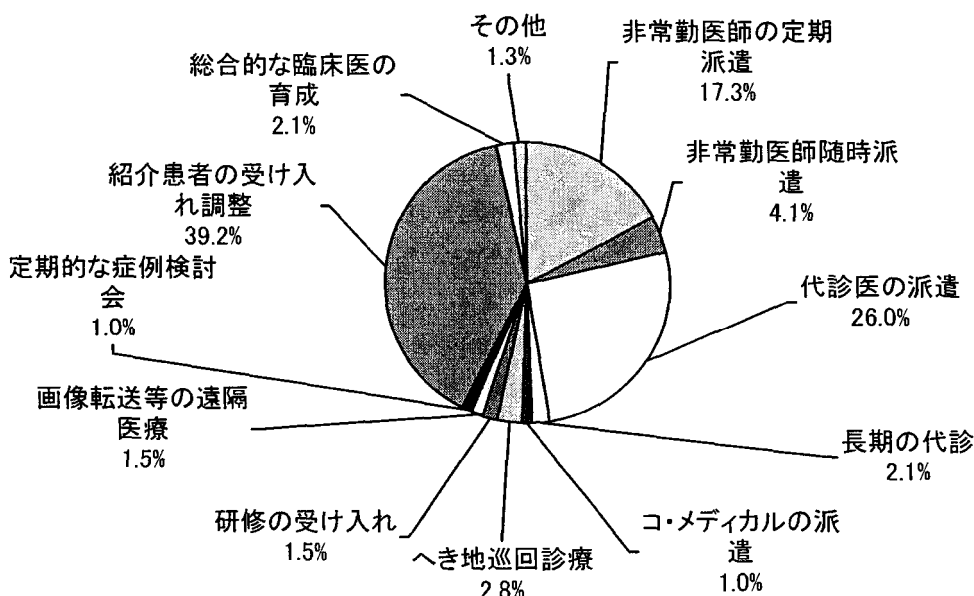
N = 397

問4 診療所にとってへき地医療拠点病院が持つべき機能を3つお答えください。
「紹介患者の受入調整」と「代診医の派遣」を挙げるものが多かった。



N = 708

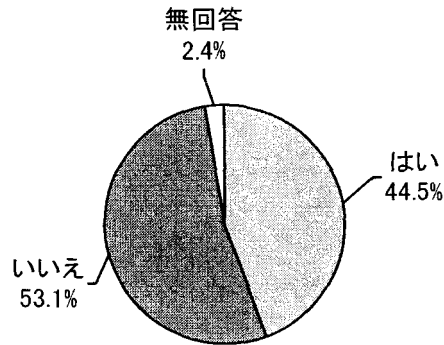
そのうち、もっとも重要なものは何ですか。
全体と同様の結果であった。



N = 388 (無回答 = 320)

問5 へき地医療支援機構(以下、機構)が設置されましたが、どこに設置されているかご存知ですか。

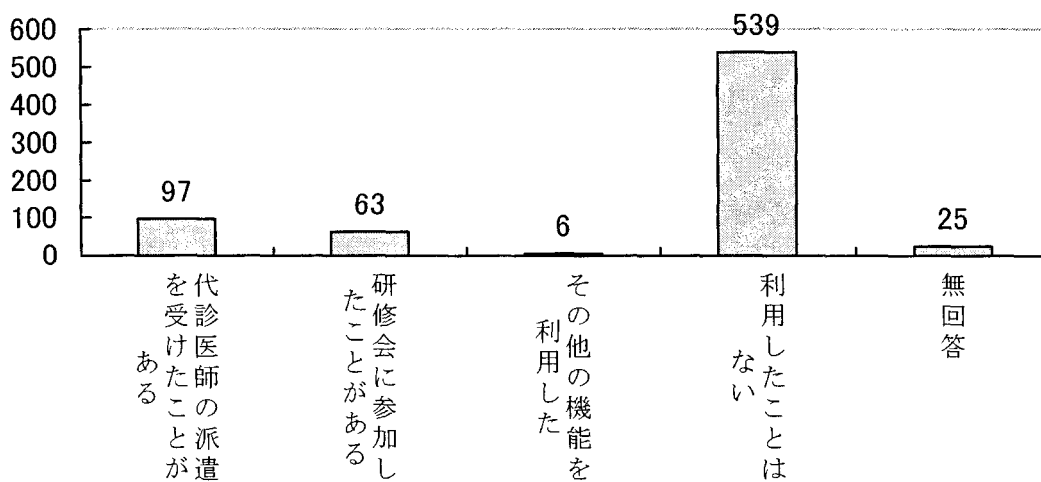
「知らない」診療所長が過半数を占めた。



N = 708

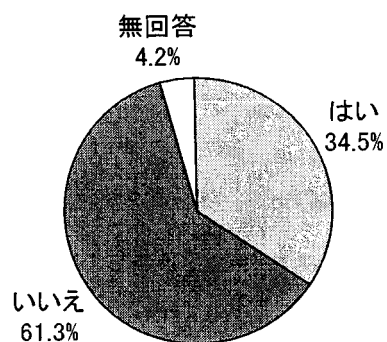
問6 機構の機能として代診医の派遣や研修会の開催などがありますが、利用したことがありますか(複数回答)。

利用したことがある診療所は少数にとどまっていた。



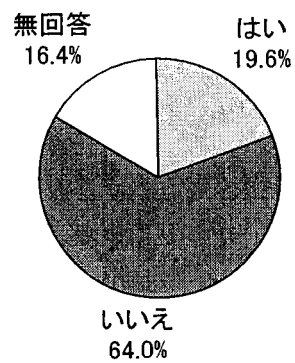
N = 708

問7 機構から貴診療所に何か情報が送られてきたことがありますか。
情報を受け取ったことのない診療所が6割を超えていた。



N = 708

問8 貴診療所の運営にとって機構の機能は満足のものですか。
満足している診療所は2割に過ぎなかった。



N = 708

問12 貴診療圏の医療状況についてお聞きします。
 次の診療行為等について、貴診療所での現在の対応と、へき地医療で望ましいと思われる対応についてお答えください。

①～③を選んだ割合をパーセンテージで、無回答の件数を数値で示します。

	1) 現在の対応についてお聞きします。				2) 理想的にはどう考えられますか。(現在の状況に関わらずお答えください)			
	①	②	③	無回答	①	②	③	無回答
《診療・管理》								
1. 生活習慣病の管理 (糖尿病・高脂血症・高血圧)	90.1	6.5	3.3	80	88.1	9.7	2.2	112
2. 糖尿病のインスリン導入	41.2	30.4	28.4	77	47.2	33.0	19.8	102
3. 基本健康診査	70.6	16.1	13.3	69	70.7	20.7	8.6	104
4. 健康相談・健康教室	67.7	21.5	10.8	71	69.3	24.8	5.8	108
5. 健康診断	73.3	15.3	11.4	68	71.2	21.1	7.7	101
6. 予防接種	82.3	11.9	5.8	69	78.9	17.3	3.8	106
7. 乳幼児健診	41.2	30.1	28.7	74	44.4	37.5	18.1	106
8. 学校医・園医	76.8	12.7	10.5	69	72.8	20.3	6.9	101
9. 往診・在宅医療	81.3	10.5	8.2	70	80.4	16.3	3.3	102
10. 介護保険意見書の提出	89.5	5.3	5.2	72	84.2	11.8	4.0	105
11. 訪問看護	45.1	29.1	25.8	83	54.5	42.3	11.2	103
12. 栄養指導	30.5	40.4	29.1	82	46.4	42.3	11.2	103
13. 生活指導(運動指導を含む)	46.1	34.4	19.5	81	55.3	37.0	7.6	106
14. 老人保健施設等の管理・嘱託医	39.0	29.6	31.4	93	42.4	36.9	20.8	111
15. 産業保健	39.7	27.5	32.8	86	39.5	37.7	22.8	111
《がんの診療》								
16. 胃がん健診(上部消化管造影)	29.9	31.8	38.3	76	34.7	39.7	25.6	103
17. 胃がん二次検診 (胃ファイバースコープ)	39.2	24.4	36.4	73	42.1	33.9	24.0	104
18. 胃がんの手術	1.0	28.4	70.7	77	1.6	32.4	66.0	97
19. 肺がん健診(胸部エックス線)	49.7	26.1	24.2	76	47.9	32.3	19.7	105
20. 肺がん二次検診 (気管支ファイバースコープ)	1.6	27.9	70.5	78	4.6	34.7	60.7	97
21. 肺がんの手術	1.3	18.9	79.9	77	1.3	24.8	73.8	100

22. 大腸がん健診(便潜血検査)	66.6	14.7	18.7	77	62.2	23.4	14.4	105
23. 大腸がん二次検診 (大腸ファイバースコープ)	10.9	30.5	58.6	75	15.6	38.7	45.7	100
24. 大腸がんの手術	0.8	26.3	72.9	77	0.8	30.5	68.7	98
25. 乳がん健診 (マンモグラフィ)	2.2	29.5	68.3	78	8.3	41.6	50.1	97
26. 乳がんの二次検診(生検)	3.7	27.1	69.2	78	4.8	35.0	60.3	99
27. 乳がんの手術	0.5	24.5	75.0	80	0.7	29.6	69.7	97
28. がんの化学療法(各種)	5.1	26.7	68.2	79	7.4	32.7	59.9	100
29. 術後の外来経過観察	39.1	29.8	31.1	81	36.3	35.3	28.4	110
《心疾患》								
30. 虚血性心疾患の心電図等による診断	76.4	14.0	9.6	72	74.3	17.7	7.9	104
31. 虚血性心疾患に対する血管造影検査	0.2	21.2	78.7	75	1.0	32.3	66.7	98
32. 急性心筋梗塞に対する心臓カテーテルを用いた治療	0.2	18.2	81.7	75	0.8	31.0	68.2	98
33. 心筋梗塞治療後(退院後)の外来通院と薬物治療	74.6	15.3	10.1	75	70.4	20.6	9.0	117
34. 不整脈の診断 (ホルター心電図を含む)	53.4	21.4	25.2	77	56.7	26.3	17.1	122
《脳血管疾患》								
35. 脳血管障害の頭部CTスキャンによる診断	8.1	31.8	60.2	75	12.1	41.8	46.1	113
36. 脳出血の開頭血腫除去手術	0.2	19.2	80.6	78	0.8	28.1	71.0	114
37. 脳血管障害による片麻痺(半身不随)に対するリハビリ	8.9	37.4	53.7	80	17.9	49.4	32.7	115
38. リハビリ後、後遺症を残した状態での在宅医療と介護支援	57.5	24.4	18.2	80	58.1	31.0	10.9	112
《外科疾患》								
39. 急性虫垂炎の診断	72.4	14.9	12.8	82	72.1	18.1	9.9	121
40. 急性虫垂炎の外科的治療	1.4	32.4	66.1	85	2.7	39.1	58.3	109
41. 急性胆のう炎の診断	63.9	17.5	18.6	85	61.8	23.1	15.2	114
42. 急性胆のう炎の外科的治療	1.6	30.3	68.1	87	2.0	36.4	61.6	109
43. 急性膵炎の診断	49.8	24.5	25.6	88	52.4	27.2	20.4	116
44. 急性膵炎の外科的治療	0.8	25.3	73.9	96	1.8	30.9	67.2	110
《整形外科疾患》								
45. 腰痛症・肩関節周囲炎に対するトリガーポイント注射	70.2	14.4	15.4	83	71.7	18.0	10.3	115
46. 膝関節腔への薬剤注入	68.6	14.4	17.0	78	70.9	17.6	11.4	113
47. 骨盤牽引・脊椎牽引	42.1	23.6	34.3	81	50.0	28.9	21.1	120
48. 温熱療法	45.2	21.8	33.0	84	54.6	26.5	18.9	120
《外傷・救急疾患》								
49. 四肢外傷の初期治療(骨折を除く)	76.5	13.0	10.6	83	78.3	15.8	5.9	119
50. 骨折患者の初期治療	44.7	26.4	28.8	84	49.7	29.5	20.8	118

51. 骨折(閉鎖性)に対する観血的 整復固定術	3.5	32.7	63.8	81	5.9	39.6	54.5	114
52. 骨折整復術後のリハビリ	12.5	35.9	51.6	86	20.1	44.4	35.5	120
53. 外傷性腹腔内出血の初期治療 (気道管理、輸液、診断等)	33.2	27.1	39.7	84	36.1	31.2	32.7	115
54. 腹腔内出血に対する開腹手術	0.5	28.5	71.1	86	1.3	34.5	64.2	113
55. 到着時心肺停止症例(CPAOA) に対する心肺蘇生	48.7	20.7	30.6	84	57.1	23.0	19.8	113
56. カウンターショック	38.2	25.4	36.4	85	56.7	25.2	18.1	117
57. 一般住民に対するBLS指導	33.3	29.8	36.9	107	45.5	33.0	21.4	139
58. 神経ブロック (星状神経節・硬膜外)	10.9	28.6	60.5	86	16.5	35.9	47.6	114
《小児の疾患》								
59. 小児(幼児以上)の診察	78.1	11.3	10.5	82	76.8	15.6	7.6	117
60. 新生児・乳児の診察	43.6	24.4	32.1	84	44.6	32.5	22.9	118
61. 小児の採血・輸液	47.8	22.2	29.9	83	48.4	29.3	22.3	117
62. 小児の肺炎の治療	24.3	28.8	46.9	87	25.5	37.9	36.5	117
63. 小児の喘息の治療	47.1	23.2	29.7	88	48.3	30.8	20.8	118
《産科》								
64. 妊婦健診	4.8	29.7	65.6	81	8.7	41.0	50.3	113
65. 正常分娩の介助	2.4	28.6	69.0	82	3.5	39.5	57.0	113
66. 帝王切開術	0.5	27.1	72.4	84	1.2	35.6	63.2	113
《眼科疾患》								
67. 白内障の薬物療法	62.5	16.8	20.7	84	59.0	23.8	17.2	115
68. 白内障の手術的治療 (眼内レンズ挿入を含む)	0.2	29.2	70.6	82	1.0	35.1	63.9	110
69. 眼内異物の治療	34.8	24.5	40.7	87	34.6	33.6	31.8	113
70. 結膜炎の治療	70.3	15.0	14.7	82	65.1	23.8	11.1	115
71. 視力検査	69.6	14.4	16.0	83	69.4	19.9	10.8	114
72. 眼底カメラ	16.0	30.6	53.4	84	26.9	36.1	37.0	110
73. 眼圧測定	6.4	30.8	62.8	82	18.6	38.2	43.2	111
《耳鼻科疾患》								
74. 鼻出血	71.7	15.5	12.8	82	68.4	22.7	9.0	117
75. 耳垢摘出	61.3	19.0	19.7	78	62.4	25.2	12.4	112
76. 喉頭異物	35.1	29.7	35.2	81	41.5	34.7	23.8	115
77. 鼻炎の治療	77.5	12.1	10.4	80	73.9	19.0	7.1	118
78. 慢性副鼻腔炎の薬物治療	66.4	15.9	17.7	80	64.8	22.3	12.9	117
79. 慢性副鼻腔炎の手術治療	1.6	25.0	73.4	81	2.5	32.4	65.1	109
80. 聴力検査	41.5	22.7	35.8	88	47.8	29.3	23.0	120
《皮膚科疾患》								
81. 湿疹の外用治療	88.3	7.1	4.6	74	84.2	11.8	4.0	114
82. 褥瘡の保存的治療	80.6	10.2	9.2	78	78.1	15.0	6.9	114
83. 褥瘡の外科的治療	19.6	31.7	48.7	84	23.3	37.3	39.4	116
84. 熱傷の治療	57.5	19.9	22.5	91	54.0	27.4	18.5	125

85. 皮膚生検	17.8	27.5	54.7	83	20.0	32.4	47.6	113
《歯科診療》								
86. 予防（歯科保健指導を含む）	26.2	36.9	36.9	128	30.3	45.0	24.6	164
87. 保存（修復）	21.3	37.6	41.1	126	22.0	47.8	30.3	166
88. 保存（歯内）	21.1	38.0	40.9	126	21.7	48.7	30.0	165
89. 保存（歯周）	21.1	37.8	41.1	126	21.9	48.1	30.0	165
90. 欠損補綴	20.0	36.5	43.5	127	20.1	46.4	33.5	165
91. 口腔外科処置	11.1	32.9	56.0	131	12.0	43.9	44.1	166
92. 歯列矯正	6.9	34.8	58.2	131	10.5	45.2	44.3	164
《各種検査》								
93. 院内血液検査	44.3	23.0	32.7	90	55.7	26.6	17.7	126
94. 腹部超音波断層検査	65.1	14.8	20.1	86	67.1	20.0	12.8	124
95. 心臓超音波断層検査	31.3	27.3	41.5	88	45.4	32.0	22.6	124
96. E R C P	1.0	29.9	69.1	96	2.0	36.5	61.5	121
97. 人工透析	1.9	28.1	70.0	88	2.9	37.7	59.4	117
98. MR I	1.0	29.0	70.1	90	2.9	37.4	59.8	119

1) 現状において

80%以上の所長が「診療所に対応している」とした項目

生活習慣病の管理、予防接種、往診・在宅医療、介護保険意見書の提出、
湿疹の外用治療、褥瘡の保存的治療。

85%以上の所長が「診療圏内で対応可能」とした項目

基本健康診査、健康相談・健康教室、学校医・園医、心筋梗塞治療後の外来
通院と薬物治療、四肢外傷の初期治療、小児(幼児以上)の診察、鼻出血、
鼻炎の治療

30%以上の所長が「対応不可能」とした項目

老人保健施設等の管理・嘱託医、産業保健、胃がん健診(上部消化管造影)、
胃がん二次検診(胃ファイバースコープ)、胃がんの手術、肺がん二次検診
(気管支ファイバースコープ)、肺がんの手術、大腸がん健診(便潜血検査)、
大腸がん二次検診(大腸ファイバースコープ)、大腸がんの手術、乳がん健診、
(マンモグラフィ)、乳がんの二次検診(生検)、乳がんの手術、がんの化学療法
(各種)、術後の外来経過観察、虚血性心疾患に対する血管造影検査、急性心筋
梗塞に対する心臓カテーテルを用いた治療、脳血管障害の頭部CTスキャンに
よる診断、脳出血の開頭血腫除去手術、脳血管障害による片麻痺(半身不随)に
対するリハビリ、急性虫垂炎の外科的治療、急性胆のう炎の診断、急性胆のう
炎の外科的治療、急性膵炎の外科的治療、骨盤牽引・脊椎牽引、温熱療法、
骨折(閉鎖性)に対する観血的整復固定術、骨折整復術後のリハビリ、外傷性
腹腔内出血の初期治療(気道管理、輸液、診断等)、腹腔内出血に対する開腹

手術、到着時心肺停止症例(CPAOA)に対する心肺蘇生、カウンターショック、一般住民に対するBLS指導、神経ブロック(星状神経節・硬膜外)、新生児・乳児の診察、小児の肺炎の治療、妊婦健診、正常分娩の介助、帝王切開術、白内障の手術的治療(眼内レンズ挿入を含む)、眼内異物の治療、眼底カメラ、眼圧測定、喉頭異物、慢性副鼻腔炎の手術治療、聴力検査、褥瘡の外科的治療、皮膚生検、

《歯科診療》予防(歯科保健指導を含む)、保存(修復)、保存(歯内)、保存(歯周)、欠損補綴、口腔外科処置、歯列矯正、

《各種検査》院内血液検査、心臓超音波断層検査、ERCP、人工透析、

MR I

2) 理想的には

80%以上の所長が「診療所に対応すべき」とした項目および90%以上の所長が「診療圏内に対応すべき」とした項目は、ほぼ現状と同様であった。

診療圏内で現在は85%以上の診療所が対応できていない項目のうち、理想的には85%以上の所長が対応することが望ましいと回答した項目

訪問看護、栄養指導、生活指導(運動指導を含む)、大腸がん健診(便潜血検査)リハビリ後、後遺症を残した状態での在宅医療と介護支援、腰痛症・肩関節周囲炎に対するトリガーポイント注射、膝関節腔への薬剤注入、視力検査、慢性副鼻腔炎の薬物治療、

30%以上の所長が「診療圏内に対応不要」とした項目

胃がんの手術、肺がん二次検診(気管支ファイバースコープ)、肺がんの手術、大腸がんの手術、乳がん健診(マンモグラフィ)、乳がんの二次検診(生検)、乳がんの手術、がんの化学療法(各種)、虚血性心疾患に対する血管造影検査、急性心筋梗塞に対する心臓カテーテルを用いた治療、脳血管障害の頭部CTスキャンによる診断、脳出血の開頭血腫除去手術、脳血管障害による片麻痺(半身不随)に対するリハビリ、急性虫垂炎の外科的治療、急性胆のう炎の外科的治療、急性膵炎の外科的治療、骨折(閉鎖性)に対する観血的整復固定術、骨折整復術後のリハビリ、外傷性腹腔内出血の初期治療(気道管理、輸液、診断等)、腹腔内出血に対する開腹手術、神経ブロック(星状神経節・硬膜外)、小児の肺炎の治療、妊婦健診、正常分娩の介助、帝王切開術、白内障の手術的治療(眼内レンズ挿入を含む)、眼内異物の治療、眼底カメラ、眼圧測定、慢性副鼻腔炎の手術治療、褥瘡の外科的治療、皮膚生検、

《歯科診療》保存（修復）、保存（歯内）、保存（歯周）、欠損補綴、口腔外科
処置、歯列矯正、

《各種検査》E R C P、人工透析、MR I

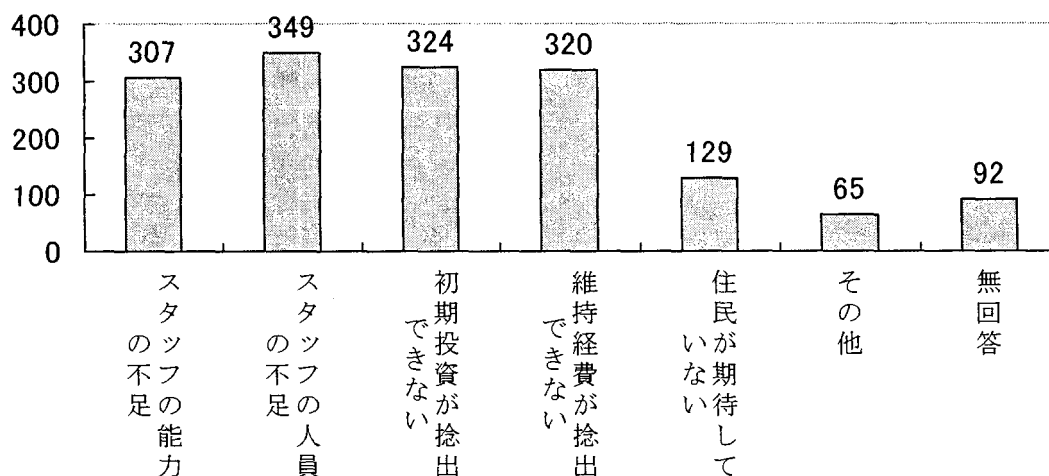
診療圏内における診療の現状より、理想的には10ポイント以上増加することが
必要であると回答された項目

乳幼児健診、訪問看護、栄養指導、生活指導（運動指導を含む）、老人保健施設
等の管理・嘱託医、産業保健、胃がん健診（上部消化管造影）、胃がん二次検診
（胃ファイバースコープ）、大腸がん二次検診（大腸ファイバースコープ）、
乳がん健診（マンモグラフィ）、虚血性心疾患に対する血管造影検査、急性心筋
梗塞に対する心臓カテーテルを用いた治療、脳血管障害の頭部CTスキャンに
よる診断、脳血管障害による片麻痺（半身不随）に対するリハビリ、骨盤牽引・
脊椎牽引、温熱療法、骨折整復術後のリハビリ、到着時心肺停止症例（CPAOA）
に対する心肺蘇生、カウンターショック、一般住民に対するBLS指導、神経
ブロック（星状神経節・硬膜外）、小児の肺炎の治療、妊婦健診、正常分娩の
介助、眼底カメラ、眼圧測定、喉頭異物、聴力検査

《歯科診療》予防（歯科保健指導を含む）、保存（修復）、保存（歯内）、
保存（歯周）、欠損補綴、口腔外科処置、歯列矯正、

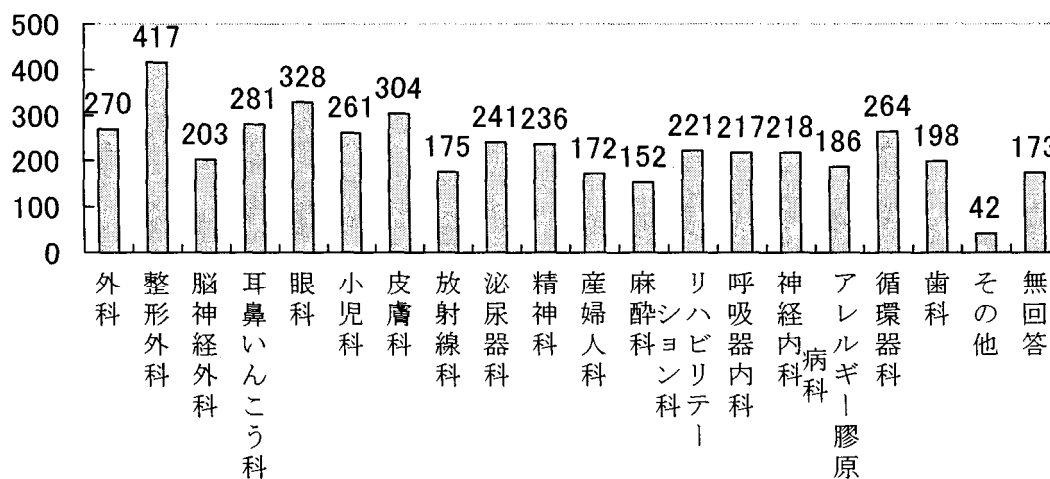
《各種検査》院内血液検査、心臓超音波断層検査、人工透析、MR I

問13 理想的には診療所に対応すべきであるが、現状で対応が不可能である場合、その理由をお答えください(複数回答)。
 人的および経済的理由から対応することができないとするものが多かった。



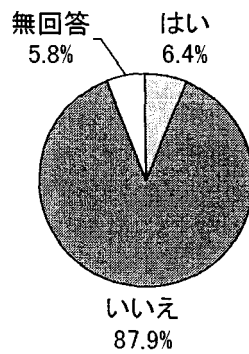
N=708

問14 貴診療所で定期的に診療を希望する診療科は何ですか(複数回答)。
 多岐にわたっているが、高齢化のためか整形外科を希望するものが多かった。



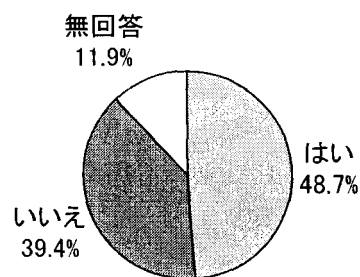
N=708

問15 平成16年度から医師の臨床研修が必修化されましたが、貴診療所ではこれまで医師の卒後臨床研修を受け入れたことがありますか。研修を受け入れたことがある診療所はまだ1割未満であった。



N=708

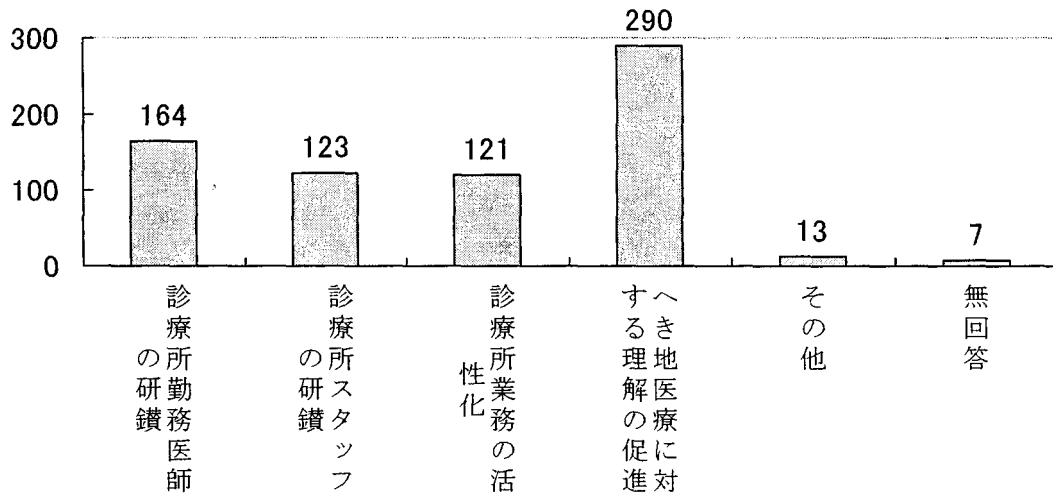
問16 研修医の研修を受け入れることは、診療所にメリットがあると思われますか。実際に受け入れた経験を持つ診療所は少ないが、好意的な印象を持っている。



N=708

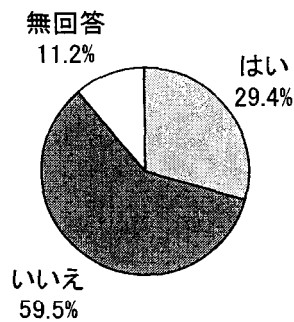
具体的なメリットをお書きください。

へき地の診療所で研修することで、へき地医療に対する理解が向上すると考える所長が多かった。



N = 345

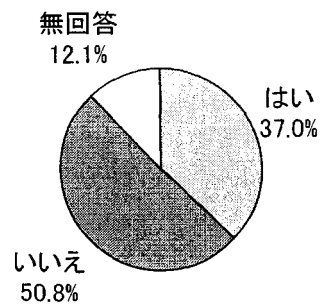
問 17 これからの卒後臨床研修における研修医の受け入れについて希望しますか。
実際に受け入れるとなると、希望する診療所は3割であった。



N = 708

問 1 8 貴診療所の診療圏に無医地区に該当する地区(無医地区に準ずる地区を含む)はありますか。

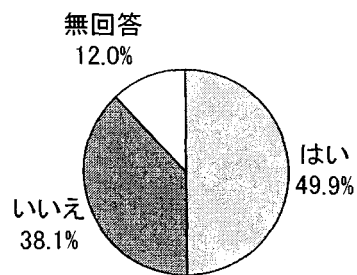
無医地区を抱える診療所は4割弱であった。



N=708

問 1 9 貴診療所の診療圏に無歯医地区に該当する地区(無歯医地区に準ずる地区を含む)はありますか。

半数の診療圏で無歯科医地区が存在していた。



N=708

問20 貴診療圏で以下の老人サービスについてお答えください。

- ①十分：供給があり容易に利用できる
- ②不足：供給があるが不足している
- ③困難：供給はあるが利用できるところまで遠く(30分以上)利用が困難
- ④ない：地域内では利用できない

①～④：%、無回答：実数

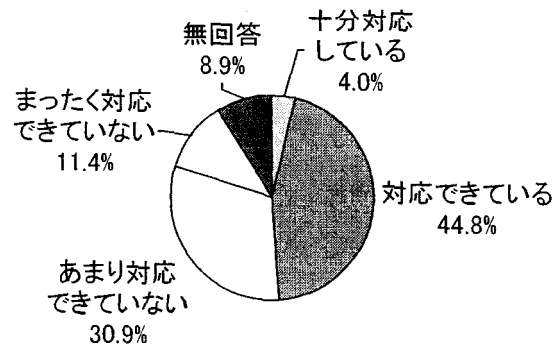
	①	②	③	④	無回答
1. 訪問介護(ホームヘルプ)	57.4	31.3	5.6	5.7	116
2. 訪問入浴介護	45.2	29.0	9.5	16.3	119
3. 訪問看護	46.5	27.3	10.3	16.0	114
4. 訪問リハビリテーション	20.4	27.5	13.1	39.0	119
5. 通所リハビリテーション(デイケア)	38.1	19.9	14.3	27.7	115
6. 居宅療養管理指導	43.4	24.5	10.5	21.6	144
7. 通所介護(デイサービス)	66.1	18.3	7.7	7.9	112
8. 短期入所生活介護(ショートステイ)	35.1	29.2	13.5	22.1	116
9. 短期入所療養介護(ショートステイ)	30.1	28.2	15.4	26.4	116
10. 痴呆対応型共同生活介護 (痴呆性老人のグループホーム)	14.0	19.6	16.2	50.2	122
11. 有料老人ホーム等における介護	10.0	14.2	15.5	60.3	129
12. 介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	18.8	34.9	14.5	31.8	123
13. 介護老人保健施設(老人保健施設)	14.7	25.0	15.2	45.1	121
14. 介護療養型医療施設(療養病床) (老人性痴呆疾患療養病床)	9.6	22.9	18.0	49.5	126
15. 老人歯科医療	33.9	16.8	11.2	38.2	171
16. 老人歯科保健	28.5	19.4	11.9	40.2	178

N=708

50%以上の所長が「十分」とした項目は、訪問介護(ホームヘルプ)、通所介護(デイサービス)のわずか2項目であった。

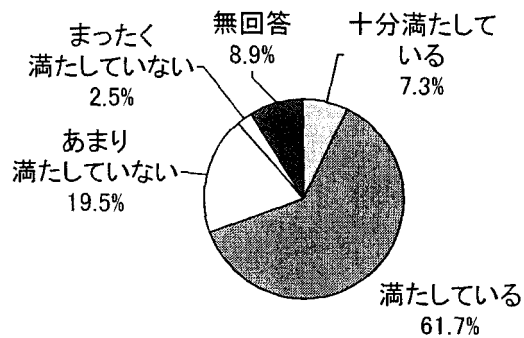
50%以上の所長が「ない」とした項目も、痴呆対応型共同生活介護(痴呆性老人のグループホーム)、有料老人ホーム等における介護の2項目であった。全般として老人サービスは十分とは言えなかった。

問 2 1 貴診療所は初期救急医療にどの程度対応していますか。
初期救急への対応はほぼ半数の診療所で対応されていた。



N = 7 0 8

問 2 2 貴診療所はプライマリケア(ありふれた健康問題に対する医療。初期救急医療を除く)について地域のニーズに応えていますか。
プライマリケアについても7割近くの診療所で地域のニーズに応えられていた。



N = 7 0 8